令和４年度　第２回学校運営協議会（兼　第２回コンプライアンス委員会）議事録

１　期日　　令和４年10月24日（月）午前９月30分から12時00分まで

２　参加者　＜学校運営協議会委員＞

岩見　良憲　　元浜松学院大学教授　元特別支援学校長
伏見　修　　株式会社　富士山ドリームビレッジ　代表取締役
井出　正則　　社会福祉法人　富士市社会福祉協議会　障害サービス室長
望月　勝也　　八王子１丁目町内会長（所用により欠席）
勝亦　英介　　勝亦園（所用により欠席）
安田　慶子　　令和４年度富士特別支援学校ＰＴＡ会長

＜教職員＞

滝尾　彰彦（校　長）　　片岡　佳美（副校長）　　村上　智美（教　頭）
岩崎　肇　（事務長）
稲木　龍元（小学部主事）　竹下　哲之（中学部主事）
山川　裕子（高等部主事）　土屋　ふみ（教務主任）
一杉　茂樹（防災課長）※　駒野　良太（防災副課長）※　※学校運営協議会のみ参加

３　校長挨拶

今回は前期学校自己評価の報告、グランシップでの研修の報告を予定している。グランシップの研修では島田市や東京都三鷹のコミュニティスクールの事例紹介があった。コミュニティスクールでは、対話のプロセスを大事にということだったので、今日の協議会でも大切にし、防災の協議では対話のある会としていきたい。

４　学校経営計画に係る前期評価と後期の方針

⑴　全体説明（副校長）

災害時に取るべき行動がＣ評価。職員が取るべき行動を分かっていないことが明確になったので、後期に整えていく。12年間のつながりについては、パソコンの掲示板を整え、小中高それぞれの学部の様子が見えるように進めている。業務のスリム化に、ここ数年取り組んでいる。スリム化を進め、様々な会議を明確にするようにしている。

⑵　各学部の取り組み

ア　小学部（小学部主事）

(ｱ)　災害時に取るべき行動

10月の学部会で、子どもがいる時間といない時間を想定し、誰がどうするか、具体的に紙に書きながら確認した。取るべき行動を確認する。

(ｲ)　タブレット

扱える人と扱えない人の二極化。教師が便利に使える設定をし、周知を図る。また、実際に使っている事例を収集し、何をどのように使うか、学年での情報共有を推進する。

(ｳ)　業務のスリム化

具体的に進んでいるが実感として乏しい。各自の努力では難しい。各教師の業務のバランスを見て分担したり、級外が高学年に入り教員の空き時間を確保したりする。終わりの時間から逆算して開始時間を設定するなど放課後の時間の使い方を考えていく。

イ　中学部（中学部主事）

(ｱ)　道徳教育・人権教育の充実

生徒指導課に併せて行っている。時間の指導でなく全体で行うという指導のイメージを再確認した。

(ｲ)　読書活動

明確化する。Ｂ課程は読書の日を月に１回設定した。道徳・人権とも関連づける。

(ｳ)　他学部を意識した系統性のある授業

どうつなげるか検討。プロジェクトで学習会を設定したり、学年で単元計画などを話題としたりする。

ウ　高等部（高等部主事）

やっているか、いないかで評価している傾向。全体的に少しずつの努力や工夫で、「じわ～っと底上げ」していく。

(ｱ)　本との出会い

読書の機会を作る。実態に応じて行っていく。

(ｲ)　災害時に取るべき行動

前向きなコメントが多い。担当課からの提案を待つだけでなく、それぞれの教員が役割を果たそうと意識を高めている。

(ｳ)　タブレット

機材が少なく、ネット環境が脆弱である。得意な教師に教えてもらい、情報共有をし高め合う。

(ｴ)　業務のスリム化

成功者からの情報を共有していく。

エ　訪問教育（副校長）

(ｱ)　災害時に取るべき行動

担当が電話連絡で確認するが、担当がいない時にどうするかを明確にする。

(ｲ)　当該学年や他学部とのつながり

同じ学年部の友達との交流を進めていく。

(ｳ)　業務のスリム化

毎月家庭学習用に月の歌や読み聞かせ動画を納めたCDを作成しているが、一人一台iPadを活用していく。

(3)　質疑応答・感想等

Ａ　委員　防災についてはこの後協議する。タブレットの活用が低い評価。通常の子と同じように使用することは難しいと思うが、タブレットを使うことによる有効性を教えて欲しい。

小　主事　パソコンやTVで活動をすぐに振り返り評価することができる。個別指導では、具体物で学習した後アプリで学習・評価する自立学習を行っている。重度の児童は、具体物の教材と併用して、画面に触れると反応するアプリを使用。子どもの実態に応じて活用している。

中　主事　タブレットの活用に関する評価は良かった。それは、評価の直前に職員を対象としたタブレットの使い方学習会を行ったからである。職員が基本的なタブレット

の扱いを把握していることの大切さを再確認し、小学部と同じように活用している。その場で確認し、自分で評価することが良い。

高　主事　iPad にアプリを入れて重度の生徒は余暇を楽しんでいる。自己評価では、生徒が自分の姿を映像で確認し、自己修正に使っている。農耕班では調べ学習で使用し、おすすめレシピを作成。また、以前は劇の映像をつなげ、映画のように仕上げることに使ったこともあった。

Ａ　委員　難しい道具だが、可能性と活用性があり、学習が広がっている。

Ｂ　委員　私はこれから海外に行く予定があるが、海外生活では、スマホがないと難しいと感じている。慣れない人はスマホの使いこなしが難しい。これからいろいろなアプリが出てくるので、活用していくと良い。弊社の職員は本を読まない人が多い。子どもの頃から本を読む習慣をつけて欲しい。また、私は清水に住んでいる。先日の台風被害以降、今までの防災の感覚が変わった。何が必要かなど、後で報告したい。

Ｃ　委員　業務のスリム化について、最近部活の委託が話題となっている。特支ではサッカーや絵、陸上などがあるが、教師の負担はどうか。子どもにとっては卒業後の楽しみとなっている。育成会ではカルチャー講座を 20 年行っている。スキル UP より顔を合わせての交流が目的。部活はいいことだが、教師の負担はどうか。

副校長　10/22（土）もくせい杯サッカー大会があった。FID サッカー連盟が運営主体。教師から障害者スポーツ団体へ移行しつつある。アートも進んでいる。まだ教師が行っているが、福祉と連携し、卒業時に活動団体を紹介し社会に出た後も余暇活動を継続していくといい。

Ｄ　委員　細やかに行っていると思った。道徳・人権教育は自分が学生の頃は授業があった。親からと違い、学校で学ぶことはありがたい。iPad 講座は子どもから聞いた。タブレット教育は家では継続できない。防災講座と同じように親向けの講座があるといい。PTA で企画しようと思う。本は年齢があがると読まなくなる。本からの情報は大事だと思う。

校　長　iPad を持ち帰る条件などを整備し、せっかく持ち帰っても出来ないともったいないので保護者向けのタブレット講座を今後考えていきたい。

Ａ　委員　次回 3 回目（２月）の協議会の時に後期の報告をお願いする。

５　研修報告　９/15 開催　学校・家庭・地域の連携推進研修会の報告（岩見委員）

平成の初めごろから、社会や組織の構造改革を進める声が高まり、学校も運営全般について説明責任が求められるようになった。この動きを背景にして、平成 12 年、校長が推薦し、教育委員会が委嘱をした評議員が、校長の求めに応じて運営や指導等について意見を述べる学校評議員の制度が開始された。名実ともに開かれた学校つくりが始まり、学校が裁量できる事柄も増していった。

平成 16 年からはさらに開かれた学校作りを進めるために、個人としての評議員ではなく、協議会という組織が学校運営を支援する学校運営協議会制度が構築された。さらに、平成 29 年には、学校は学校運営協議会を「設置できる」の表現から「設置は努力義務」となり、学校運営協議会のある学校は増加の傾向となっている。

学校運営協議会を設置している学校をコミュニティスクール（CS）と呼ぶ。今なぜ CS が求められているかについては、3 つの要因で説明される。それは、地域における教育力を活性化していきたいこと、学校を取り巻く環境が複雑化・困難化していること、学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」を実現するために、などである。これらの課題や理念を視野に入れながら、CS は学校・家庭・地域が連携し、学校教育を充実させていくことを目指している。

CS の実践として、多くの取組みが報告がされている。例えば埼玉県久喜市では、小学校と中学校の 3 校が連携して地域学校協働本部を設置し、活動を行っている。島田市立川根小学校は、地域の人たちと一緒になって「あっちこっちハイキング」や、交通安全リーダーと語る会などの取組みを行っている。学校の実態や地域とのつながりの状況を踏まえて、各実践を学ばせていただけばよいと思う。

CS を進めるにあたって、大切だと考えられる事柄をいくつかあげておきたい。

まず、学校・家庭・地域は、それぞれが担っている子どもの成長に関わる責任と役割を自覚し、尊重し合うことが重要である。当事者意識の再確認であり、地域が学校・家庭の教育を先導することではないことを押さえておきたい。

CS に取り組む体制として、地域学校協働本部を立ち上げる方法が提案されているが、これは一つのモデルとして考えたい。様々な取組を行う中で、地域学校協働本部があったほうが活動しやすいとの声があれば、設置すればよいのだと思う。

まずは、できることから始めることだと思う。例えば、現状における学校・家庭と地域のつながりを整理し、学校・家庭は地域に何を求めているか、いわゆるニーズを明らかにすることである。また、教職員の CS の活動に対する深い理解と協力をお願いしたい。

学校運営協議会の進め方としては、今回計画されている話合いの方法が、今後の方向を示していると考えている。つまり、学校あるいは家庭が地域の意見や協力を得たい具体的事柄を議題として提案し、出席メンバーで話合うことである。解決したい事柄を熟議することによって、互いの学校運営についての考えが明確になり、教職員だけの話合いでは出てこないアイデアや、CS としての具体的な活動が生まれてくるかもしれないからである。

６　防災の取り組みについて（教頭）

前期に訓練を 3 回行った。4/28 はＡ・Ｂ課程を分け避難場所を２か所とした。安否確認が難しかった。6/27 は火災訓練を２か所に分かれて行った。ラインアプリを用いたことで前回よりスムーズだった。暑い時や寒い時の対応が検討項目に上がった。9/1 は総合引き渡し訓練を行なった。保護者への引き渡しまでの流れを確認することができた。6/23 に福祉避難所について湯井さんより講習を受けた。夏休みの HUG 研修ではそれぞれの抱えるニーズを考察することが難しかった。いのちをつなぐ未来館の講話では、楽しみながら学習することの大切さを学んだ。避難所設営研修では校内の防災倉庫、備品、発電機の使用方法を全員で確認した。PTA 施設防災部では６月に

防災の視点で校内を回ったり、10 月に発電機や防災滑り台を体験したりした。地区の防災会議へ参加し、大渕小・中・富士市・大渕自治防災と話し合いを行った。災害が起こったとき、本校の安否確認を大渕まちづくりセンターに報告すると援助を受けられることを確認した。本校は本校の生徒を対象とした福祉避難所として登録。市の方針は自助なので、避難してきた人と連携して、自分たちでできることを進めていく。富士市の避難所マニュアルはまだできていない、これから作成予定。次回の会議では福祉避難所になったときの物資についてなどを予定している。

防災課長　災害時要援護者対策として、個別避難計画の作成がある。豪雨レベル３で要援護者は避難となる。断水のとき配給の列に並ぶなど、障害者は大変。学校だけでなく地域（行政や町内）との連携が大切。

７　防災の取り組みを受けて協議（３グループに分かれて）

＜学校の課題＞

本校は福祉避難所として登録。Ｒ３保護者アンケートでは 40％が学校に避難することを希望。発災から 30 分以内に到着できる職員は 27 名。（ただし、何を・誰が等、明確になっていない。）今後

整備していく。

Ａグループ

みんなで働き助け合う。人員確保、地域との連携、事前からのボランティアとの連携が大切。アクセスがよくないので、教師や保護者が来られるか不明。医療的ケア対応、感染症対応、校内割振り、ペット、クレーム対応など様々な課題がある。

Ｂグループ

教師は来られないかもしれないので、保護者が運営できるマニュアル作り。cocoo を活用した、保護者同士の連携。場所の割振りを準備しておく。

Ｂ　委員　清水における台風被害を経験して、訓練とは違った。災害トイレは処理に困るため、ほとんど使わなかった。使わなくて困ることはなかった。ＳＮＳが強い。大事な所を占めている。官庁より民間。困ったことを土曜日に発信すると、月曜日には水や炊事道具など必要な資材が集まった。

Ｃグループ

誰が避難してくるか対象者を把握しておく。開設したことを知らせる。発災からの手順（場所配置や物、支援）を想定しておく。

Ｃ　委員　職員が災害ボランティアで清水に行っていた。福祉避難所をすぐ立ち上げるのは難しい。市も考えてない。保護者は知らない所より学校がいいと思うだろうが、全員を受け入れることはできない。優先順位を決める。施設も同じ。どうしても家でみられない人、地域で支えることが難しい人が優先でないと、現実問題、回らない。

Ａ　委員　やってみたいことや参考になることを今後活用していく。

８　コンプライアンス委員会

⑴　前期の報告（教頭）

個人情報　学年のカメラが一時紛失。教師が間違って鞄に入れ家に持ち帰っており保管の仕方について確認した。

物品処分　不要品処分の仕方の引継ぎが不十分だった。手続きについて再確認した。

交通事故　６件。注意喚起し、グループで無事故無違反を目指す取り組みをしている。アルコールチェックを出張前後に行い、確認している。

校内事故　スポーツ振興保険対象１件。教師が持っていた筆記具で児童が怪我。注意喚起。教師の公務災害はない。

スクールバス運行　県より立入検査があり、情報確認を行った。問題なし。

⑵　質疑応答

Ａ　委員　教師の交通事故について。安全への啓蒙はどんなことをしているのか。

教頭　出勤ボード近くに無事故の継続日を表示。掲示板へコンプライアンス通信を掲載。

Ｂ　委員　ドリームビレッジでは職員の事故が多くて困っている。保険会社を活用。データの送付や事故のビデオ視聴など交通安全教室を行ってくれる。外部機関を利用してはどうか。

Ａ　委員　交通事故で些細なことや駐車違反なども学校へ伝えているか。駐車違反の点数が免許取り消しに関わることがあるので。

校長　　勤務時間内のものを連絡。行政処分を受けないもの（物損）は連絡しなくてもよい。免許のコピーを事務へ提出している。速度超過について県から通知が来るので掲示板にあげている。交通事故に関して掲示板や会議で注意喚起している。

Ｂ　委員　ドリームビレッジでは、半年に１回免許違反歴を調べている。

Ａ　委員　児童生徒の生徒指導（人権指導）に対するコンプライアンスはどうか。

副校長　　生徒指導課が、１年に数回、教師に対してチェックリストで行っている。

Ａ　委員　１人１人の差別に対して、腹を割って話す機会が大切。いつもいつも繰り返し行うことが大切で重要。

副校長　　生徒指導課中心でチェックシートを行い、生徒への接し方について、部主事が中心となって、日々アンテナを高くして取り組んでいく。

情報提供…富士特展（Ippuku にて）、富士宮東高校福祉フェア、エシカル甲子園 2022（徳島県）へ高等部エコサービズ班が出場

９　校長挨拶

次回２月が第３回目の学校運営協議委員会になる。次回も皆で熟議を行い、よりよい学校になるようお力添えをお願いしたい。エシカル甲子園本選への出場にあたっては、PTA より援助をいただいた。

次回（第３回）は 2/15（水）を予定。